215796
昭和25年10月18日

宮島誠一郎

國憲編纂起原

全

明治三十八年十二月

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

(27)

宮島誠一郎

國憲編纂起原

全

明治三十八年十二月

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

養浩堂藏書

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

國憲編纂起原緒言

予頃者宮内省ニ奉職シ。一等出仕伊地知正治君ト。諸規取調所ニ從事。帝室典範材料編纂ノ事ヲ命セラル。然ルニ今春以來。國會開設請願者日々太政官ノ門ニ輻湊シ。當局ノ役人應接ニ暇ナシ。予ノ諸規取調所ハ内閣ト接近シ。日々請願者參入。時情頗ル不穩ナルヲ目擊ス。然ルニ政府ノ請願者ニ對スル處置ヲ察スルニ。之ヲ拒ムニアラス。又之ヲ容ルニアラス。一定ノ方針ナク。其處置ニ窮スルモノヽ如シ。予以爲ラク西南騷亂後。大久保參議兇手ニ斃レ。世上人心定ラス。此際斷然立憲ノ政體ヲ確立セサレハ。國家治平ノ道無覺束。予向ニ辛未廢藩ノ際。左院創設ノ初メニ當リ。

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

國會ノ猶豫スベカラサルヲ知リ。壬申ノ五月立國憲ノ議ヲ建言セリ。政府之ヲ嘉納シ。代議政體取調ノ件ヲ太政官ヨリ左院ニ命セラル。當時岩倉右府洋行中ナレハ。恐ラクハ其當時ノ事情ヲ詳悉セラレサルモノアラン。目下國會請願者蜂起ノ時ニ當テ。當時ノ事情ヲ右府ニ内告シテ。去ル五六年正院左院綢繆ノ事情ヲ明瞭ニシ。政府人民ノ疏通ヲ謀ルハ。敢テ無用ノ事ニアラスト自信シ。右府ニ内謁ヲ求メタリ。然ルニ八月六日面會可致旨回答ニ接シ。其朝未明蓐上挑燭テ説明ニ供スル大要ヲ摘記シ。岩倉ニ持參セリ。其書左ノ如シ

國憲編纂ノ原因

明治五年四月起草建言

此時西郷板垣在政府。此建言ハ板垣大賛成。伊地知正治君モ大議官奉職ノ節ニテ。頗ル此議ニ左袒シ。仍テ議長後藤ニ差出セシニ。副議長江藤之意見ハ。國憲ハ右等國體論ノ如キモノニアラス。卽チ佛國ノ五法ニ過ギス云々相拒ム。江藤氏司法卿轉任之後。伊地知氏副議長ヲ命セラル。仍テ此建言ヲ正院ニ進達セリ

五月九州御巡幸前。府縣代議政體取調之儀。左院ニ御下命アリ。小官等速ニ着手ス。然ルニ此取調書左院ヨリ進達遲引セシ原因二アリ。一ハ御巡幸中島津久光氏之不平論（廢刀、斷髮服制、改革等ヨリ。）西郷參議稍々躊躇ノ色アリ。一ハ後

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

藤議長民業經營（創始蓬萊社）ノ爲。官職引退ノ意アリ。是ヲ以テ此調書モ議長手許ニ其儘ニ相成リ。板垣氏心中大ニ不平。

明治六年府縣會未ダ立ザルニ。大藏省ノ租稅諸規則等餘リ繁密專制ニ過ルヲ以テ。出納ノ外ハ正院ニ於テ金穀ノ權ヲ執ルベシトノ議相發シ。官制潤飾ノ名義ヲ以テ。正院ノ中ニ內閣ヲ設ケ。參議ヲ增加シ議官トナシ。章程ヲ改革ス。爲ニ井上大藏大輔辭職シテ大隈參議事務總裁ト爲ル。此時左院ハ伊地知副議長一人擔當ス。此改正後正院ニ於テ諸省ノ權ヲ取リ左院ハ國憲民法二件ヲ編纂スルノ常職ト相成ル。國憲ハ伊地知氏主トナリ。

松岡橫山及予ヲ以テ從事セシメタリ。

此時皇居（在西丸）炎燒。太政官並ニ左院總テ假住居ノ態ナリシガ。予一日正院ノ命ニテ官代ヘ出頭セシ處。板垣江藤兩參議予ニ語ル。伊地知ハ言語不明ノ點多ク。三條公對話難澁ナリ仍テ後藤ヲ左院ニ總裁トシテ兼勤セシメ度。院中無異議ハ。伊地知副議長ヨリ申立ノ手順。可然盡力ヲ賴ム云々。仍テ伊地知ニ內談ノ上伊地知ヨリ後藤ヲ申立タリ。後藤左院ニ兼勤スルヤ。院中ニ達シ國憲ハ五法ナリ云々。仍テ稅法商法刑法治罪法民法ノ五法ニ分課セリ。分課布達ノ後。伊地知突然辭表ヲ差出シ退去。此時西鄕參議病ト稱シテ靑山ニ引籠久シク政府ヘ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

出勤セス。大久保ハ漸ク歐洲ヨリ歸朝シ。予ヲ招キ伊地知辭表ノ趣旨ヲ問ハル、予仍テ其顚末ヲ說キ聞シム。九月岩倉殿及木戸伊藤諸氏歸朝スルヤ。政府不穩ノ狀アリ。是ヨリ先キ板垣氏西鄕ノ病ヲ問ヒ。征韓ノ事ヲ約ス。予一日板垣ヲ叩キ速ニ地方會議ヲ起シテ國憲ノ制定ヲ期スベシト談セシニ。板垣曰ク余ハ此際少シ所見ヲ異ニセリ。西鄕ト約シテ中央政府ノ權力聚合ヲ謀ル。議院論ハ第二著ト相成リタリ云々。予其素論ニ反對セシヲ極論セシニ。征韓云々ノ事ヲ內話セリ。予ハ現今ノ時勢決シテ外征ノ不可ナルヲ論シ。國憲論ハ予ノ素志ナリ。征韓ノ如キハ未ダ腦裏ニ無之ト板垣ニ決答ス。此

ヨリ大久保ニ至リ征韓ノ不可ヲ論辯ス。

十月征韓論政府更替後。大久保ニ再ヒ內務新省創立ノ事ヲ勸ム（此論別紙ニ記載セリ）而シテ國憲ノ不可忽ヲ說ク。大久保曰ク委細岩倉ニ談シテ伊地知ヲ引出ス可シト。

七年正月舊參議後藤等人民ヲ代表シテ突然左院ニ出頭。民選議院論ヲ建白ス。

佐賀ノ亂起ルヤ。伊地知氏昨秋以來辭表引込ノ處。此ニ到リ初テ左院ニ出勤。國憲編纂ニ盡力ス。正院ヨリ新參議寺島宗則伊藤博文兩氏。左院ヨリ議官加藤弘藏松岡時敏等從事編纂セリ。

臺灣ノ役大久保辨理大臣淸國ニ派出シ此秋歸朝。有馬

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

温泉ニ赴ントス。予大久保ニ到リ内務創立以来内外多事人心未ダ安堵ニ到ラズ。速ニ地方官會議ニ着手アラン事ヲ論ゼリ。

明治八年ノ春。大久保木戸大阪ニ會議シ。板垣モ亦土佐ヨリ來ル。俄然大改革四月十四日ノ聖詔ヲ發セラレ。元老院創立左院廢セラル。積年伊地知取調ノ國憲編纂モ到底不可爲見込ニテ伊地知參議職辭表ヲ呈出ス木戸板垣參議再任ノ後ハ。内閣諸省分離ノ論起リ。又島津左大臣ノ論モアリ。混雜中漸ク淺草本願寺ニ於テ地方官會議一回ヲ終レリ

九年奥羽御巡幸岩倉右府供奉。還幸ノ後岩倉殿ヨリ國

憲取調ノ件ヲ元老院ニ達セラル

十年西南事件ノ終ルヤ。伊地知修史館總裁病氣保養ノ爲メ鹿兒島ニ歸リ辭表進達ス

十二年四月一等侍補吉井友實ヲ鹿兒島ニ遣ハサレ伊地知御用召ニ相成ル。而シテ東京ニ來リ宮内省一等出仕ヲ命セラレ猶又帝室御用仰付ラル。予モ亦十二月十九日ヲ以テ宮内省御用掛仰付ラレ伊地知ト共ニ内規取調ニ從事ス。伊地知ヨリ一册ノ書付ヲ差出サレ。一見セシニ。岩倉右府昨十一年三月奏上ノ奉儀局開設ノ建議ナリ。

以上大略如此ノ始末ヲ摘記シ。八月六日早朝ヨリ岩公ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

對シ大使洋行中ニ於ル國憲ノ顚末ヲ縷々演說ニ及ビ。目下ノ時勢立國憲ノ已ム可ラサルヲ切言セシニ。右府大ニ感セラレ曰ク國憲ノ議明治五年ニ發起セシ事ハ今始テ知ル。爲メニ前後ノ事情明瞭ト相成リ。感謝ニ不堪。仍テ國會開設ノ參考ニ供シ度。年月順序ヲ揭出シテ。至急一部編纂ノ上。手許迄差出吳候樣懇望ノ至也云々。予之ヲ謹諾ス。

明治十三年八月宮島誠一郎手記

岩倉公へ遣シタル書翰

肅啓閣下益御安適御執掌爲國奉抃賀候陳ハ昨年來御內約ニ及候ニ付去五六年頃閣下歐洲御派出御留守中廟堂之形勢國憲編纂起原ニ屬スル部分小子私記中ヨリ抄出日月ヲ揭ケ寫取申候素ヨリ外露致候テハ不都合之物ニ付閣下切御所見被下度奉存候時宜ニヨリ伊藤參議へ差シ廻ハサレ候テハ如何ニ候哉此又御一考被下度奉願候昨年亡父病中ヨリ取調終ニ喪服ニ相會シ候爲メ非常延引仕候御繁忙中恐入候得共一兩日中御參朝前暫時拜謁仕度此旨以書中奉伺候也　謹言不宣

明治十四年五月十一日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

岩倉具視殿閣下

右大臣ヨリ答翰

去月御書披見愈御安泰欣然ニ候然ハ昨年御内話御座候
去五六年頃小生洋行中御抄録書御廻シ忝存候篤ト覽觀
致度候間暫時留置申候此段御答迄乍延引一筆如此御座
候也

六月九日

宮島誠一郎殿

具視

宮島誠一郎拜

二

國憲編纂起原

明治五年壬申四月小官左院ニ奉職ス此時參議西鄉隆盛
板垣退助現ニ政府ニ在リ右大臣岩倉具視參議木戸孝允
大藏卿大久保利通歐米諸國へ條約延期ノ大使トシテ派
出ノ留守ナリ然ルニ當時廢藩立縣日猶淺シ物論囂々ト
シテ近ク府下ニハ民權自由ノ主義ヨリ共和政體ヲ主張
スル黨派アリ遠ク諸縣ニハ封建守舊ノ主義ヨリ君主專
裁ヲ主張スル論黨アリ此際政體一定セサレハ到底如何
ナル時勢ヲ現出スルモ難計左院ハ正院ノ顧問職ニ備ハ
リ漸々立法ノ權ヲ有スレハ是非トモニ國憲御確定有之
度大議官伊地知正治ニ協議ス同氏頗ル左袒正院ニ於テ

三

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

ハ板垣參議大ニ贊成アリ速ニ西郷參議ニモ熟議有之即チ小官左院儀制課長ノ任ヲ以テ後藤議長迄左ノ通リ建白ス

立國憲議

至尊ハ天下人民ノ父母ナリ父母タルノ權利アレハ人民ヲ保護スルノ義務アリ朝廷之カ爲メニ官ヲ設ケテ之ヲ支配セシム卽チ政府ナリ政府已ニ此權利ト義務トヲ有スレハ人民亦之ニ對スル權利義務アルヘキコト勿論ニテ之ヲ定ムルハ先ツ其國憲ヲ立ルニ在リ其國憲ニ準シテ民法ヲ定メ人民相互ノ義務ヲ行ハシム而シテ其國憲民法ニ違フ者ハ刑法ヲ設ケテ之ヲ律ス

此ニ於テ政府始メテ人民保護ノ道定ルナリ故ニ國憲立テ民法隨テ定リ國憲民法定テ然ル後ニ刑法始メテ設クヘシ是方今國憲ヲ立ルノ議尤急務タル所以ナリ

抑

皇國古來固有ノ國體ハ君主獨裁ニシテ百般ノ改事唯在上ノ施爲ニアリ人民素ヨリ權利ノ何物タルヲ知ラス併セテ義務ノ何事タルヲ不知ナリ今ヤ外國交際日ニ開ケ月ニ盛ナルノ時ニ當ル然ルニ無智蒙昧ノ人民漸々外國ノ國體ヲ窺ヒ自主自由ヲ名トシテ徒ラニ自己ノ權利ヲ誇張シ却テ其義務ヲ勤メス甚キニ至テハ共和政治ノ論ヲ爲スモノアルニ至ル宜シク先ツ至當

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

ノ國憲ヲ立テ君權ヲ確定シテ皇國固有ノ君權如何國憲如何ヲ邦内人民ニ告知スヘシ而シテ其君權國憲ニ則リテ適宜相當ナル民法ヲ定メ人民ニ權利ヲ與ヘ從テ義務ヲ行ハシムル之ニ違フ者アル卽チ刑法ヲ以テ之ヲ罰シ民法ハ令ナリ刑法ハ律ナリ律令ヲ定ムルハ我天皇陛下ノ權ナリ

其國憲ヲ定ムル如何古來固有ノ君主獨裁ヲ以テ之ヲ定ムルトキハ或ハ人民ヲ抑遏シ開化ノ進歩ヲ妨クルノ弊害アルヲ免レス君民同治ノ法ヲ取テ之ヲ定ムルヲ尤モ宜シトス雖然文明ノ化未タ下民ニ及ハス教育ノ道未タ成ラス今假令ヒ民選議院ヲ設クルトモ國是

ノ論ヲ取ルヘキモノ萬人中ニ恐ラクハ一人ヲ得ルコト難ク却テ紛擾ヲ招クニ至ルヘシ然ラハ則君主獨裁ノ體ヘ君民定律ノ中ヲ取テ國憲ヲ定メ萬機憲法ニ徴シテ之ヲ行フヲ可トス其憲法ヲ定ムル左院之ヲ論定シテ之ヲ正院ニ致シ右院及ヒ諸省ノ長官同一スルニ至テ裁決ヲ至尊ニ仰キ以テ之ヲ天下ニ布告スヘシ左院ハ國議院ノ如ク正院ハ元老院ノ如ク右院（諸省長次官ト府縣トノ官ノ會議所）員ヲ以テ姑ク民選議院ト看做スヘキナリ然シテ此國憲ニ準據シテ政務ヲ施行シ漸々開化ノ進度ヲ待テ眞ノ民選議院ヲ設クルナリ仍テ君主獨裁ニ君民同治ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

中ヲ參酌シテ至當ノ國憲ヲ定ムルヲ當然ノ順序トス
右上申至急御評決被下度奉願候也

明治五年壬申四月

少議官儀制課長　宮島誠一郎

然ルニ副議長江藤異論有之所謂國憲ナル者佛蘭西ノ五
法ノ如ク廣ク人民ニ關渉セシモノニテ其性質帝王自家
ノ憲法ニ非スト之ヲ拒ム其後江藤ハ司法卿ニ轉任シテ
伊地知氏副長ヲ命セラル此時大久保大藏卿米國ヨリ御
用有之中途歸朝ニ相成リシニ依テ此建白草案ヲ送附シ
猶隨行歸朝ノ吉原彌次郎(重俊)ニ相示シ英佛等ノ立法行

法等ノ組織方法ヲ尋問シ五月十三日大久保卿ヲ弊宅ニ
招請シ篤ト建言始末ヲ陳述スス因テ翌十四日正院ヘ進奏
大久保卿五月十五日ヲ以テ再ヒ歐米ヘ派出ノ後同月二
十二日ヲ以テ正院ヨリ左之通推問アリ

左院ヘ

府縣代人ヲ以テ議員ニ充テ集議ヲ興シ候儀御治定相
成候條右規則取調可申出候事

太政官

壬申五月二十二日

右ノ明文御渡ニ相成五月二十五日ヲ以テ
天皇九州御巡幸被爲在タリ板垣參議小官ニ囑シテ頻ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 232

後藤議長ニ取調書進達ノ事ヲ督促セシム因テ左院ニ於テ取調左之通

國會議院假手續取調

國會議院御創建ノ手續取調候樣御下命有之候ニ付乃チ取調別冊規則之通ニ御座候然リト雖モ今俄ニ之ヲ御施行有之候テハ實地ニ難被爲行事情モ可有之懸念仕候間先ツ此度ニ限リ左ノ手續ヲ以テ御施設有之可然奉存候

一　國會議院ハ東京ニ於テ一箇所ヲ設ク

一　國會議院ノ會議期限ハ今茲壬申九月中迄ニ各府縣ノ官員東京ニ會集スヘシ

一　議事ノ開院ハ十月中旬タルヘシ

一　國會議院ハ毎年一度ツツ必ス開クヲ以テ恒例トス其開院ノ日數ハ三箇月ヲ以テ期限ト爲スト雖モ本年一會ハ先ツ五十日ト定メ遲速ハ時ノ宜キニ從フヘシ

右箇條ノ外數件ノ規則アリト雖モ各府縣官員出京ノ上頒布致スヘキ事

御布告ノ御趣意取調大略左ノ通

一　積年深ク宇内ノ形勢ヲ御熟察此度泰西各國議院ノ法則ニ基キ東京ニ於テ國會議院ヲ御創建云々ノ事

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

一　本年一會ニ限リ參事等ノ内ヨリ一人ツヽ議事ノ爲メ可差出云々ノ事

一　國會議院ハ選擧人等相立議員入札公選等ノ方法具備ス然リト雖モ今俄ニ之ヲ施行セハ恐ラクハ支吾ノ憂ヲ生セン故ニ先ツ地方ノ官員ヲシテ議院ヲ立ル所以ノ方法處置ヲ評議セシメ然シテ後來酉年ヨリ開院規則ノ通施行候條其心得ヲ以テ施設ノ緩急事業ノ成否或ハ前途ノ目的等ヲ熟議シ出京可有之云々ノ事

一　前後ノ處分手續書ニ照準可致云々ノ事

右樣ノ體裁ヲ以テ御布告有之可然奉存候也

壬申八月

左院

議員ヲ選ムノ事

一　第一農工商ノ財産アリテ文字ニ通シ事務ノ論モ相應ニ出來スル者

一　第二右ノ見込ノ者ナキ時ハ寧ロ財産ニ乏シクトモ文字ニ通シ事務ノ論相應ニ出來スル者

但シ議員ハ來酉年ノ春ヨリ三府七十二縣ニ一人宛ヲ出スヘシ

議員ヲ選擧スル人ノ事

一　府縣下農工商ノ中財産アリテ事務ヲモ可ナリ心得シ者百人或ハ二百人ヲ寄セ假ニ選擧組ト稱ス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

一　右選擧組ニテ議員一人ヲ擧ルニ前ニ掲クル二條ノ見込ヲ以テ入札シ其札數ノ多キモノヲ以テ定ムヘシ

但シ財産ノ數幷ニ選擧組人數ノ多少ハ府縣ノ適度ヲ以テ定ムヘシ

前文至急議長マテ差出スト雖モ議長敢テ進奏セス其意官ヲ避クルノ内慮アルニ似タリ又西郷參議ノ供奉薩摩ニ至ルヤ島津久光幷藩士和田某（八之進）ヨリ數件ノ建白ヲ宮内卿徳大寺實則ニ進奏ス辭シテ受ラレス此時陸軍省沸騰ノ事起ル西郷氏還幸ニ先チ東京ニ入ル小官一日板垣ヲ訪ヒシニ同氏曰ク代議士取調ノ儀モ已ニ機會ヲ

失フ而シテ西郷同僚ノ歸ルヤ御巡幸前ノ氣勢ニアラス少シク心配アルニ似タリ國會設立モ覺束ナシ云々仍テ左院ニ於テ取調タル草案モ無効ニ屬セントス然ルニ還幸ノ後果シテ和田某上京左院ニ建白ス小官之レニ應接ス其書中云々在廷ノ大臣ヲ非議スルモノ專ラ西郷參議ヲ指スニ似タリ遂ニ說諭ノ上其建白ヲ却下ス時十一月ナリ

明治六年二月之下旬ニ廟議木戸大久保ヲ歐洲ヨリ召還ノ命アリ右ハ此頃廟堂ニ於テ頻ニ發論ノ事件ハ官省ノ章程其宜ヲ不得シテ行政諸省頗ル偏重ヲ不免今日ノ勢諸省封建ノ姿ヲ爲ス就中大藏ノ如キハ地方民政ヲ兼管

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

シ爲メニ撫育治産ヨリ租稅徵收ノ事迄一權内ニ併歸シテ縣治上苦情不少此弊害ヲ撓ント欲セハ出納ノ外金券發行租稅增減等ノ事一切正院ニ於テ綜理セサルヘカラス剩サヘ正院ハ太政大臣一人ノ外唯西鄕大隈板垣三參議ニテ日々諸省百般ノ事務ヲ親判スル實ニ煩冗ヲ極ムルナリ仍テ此際更ニ正院中ニ於テ内閣ヲ置キ參議ヲシテ議官ヲ兼任セシメ大ニ立法ノ權ヲ握リ而シテ議政行政ヲ分ツテ議政ノ下ニ國會院ヲ創立シテ府縣ノ民情ヲ暢達シ行政諸省ノ偏重ヲ平均スルハ今日ノ急務ナリトノ廟議ヨリ木戸大久保ヲ召還セラルルナリト然ルニ三月頃ヨリ大藏省ニ於テ府縣長次官ヲ召集シ地租改正ノ事

ヲ議セントス其規則章程議長議員ヲ設ケ可否ノ多數ニ因テ議事ヲ決スル等ノ事議院ノ權内ニ犯入シテ行政ノ施行スヘキ所ニアラス仍テ正院ヨリ之ヲ破毀シ會議稍頽色アリ

四月十九日後藤議長江藤司法卿大木文部卿等更ニ參議ニ任セラル二十三日ヨリ正院ニ政體潤飾ノ議相始ル且ツ内務省ヲ立テ大藏ノ民政ヲ分チ、國會ヲ起シテ府縣ノ民情ヲ暢達シ、文部ノ敎育ヲ隆ニスル、工部ヲ人民ニ付スル、州縣ヲ革正スル、國法ヲ定立スル、廟議日ニ熾ニシテ、左院之カ爲ニ推問頗ル多シ

五月二日ニ到リ政體御潤飾御布令正院職制章程改定被

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

仰出西郷大隈板垣ノ外ニ、後藏大木江藤ノ三參議ヲ增加シ、内閣議官ヲ兼任セシメ、新ニ内閣ノ名稱ヲ設ケラル左ノ如シ

勅旨

明治四年辛未七月制定スル所官省ノ位置職員ノ權限各其序ヲ得ルト雖モ當今ノ時勢現務上ニ於テ或ハ其弊ナキ能ハス故ニ太政官ノ職制章程ヲ潤飾ス百官其レ之ヲ奉承セヨ

明治六年五月二日

太政官職制

天皇陛下親臨

正院

太政大臣

天皇陛下ヲ輔弼シ萬機ヲ統理スルコトヲ掌ル諸上書ヲ奏聞シテ制可ノ裁印ヲ鈐ス

左右大臣

職掌太政大臣ニ亞ク太政大臣缺席ノ時ハ其事務ヲ代理スルヲ得

參議

内閣ノ議官ニシテ諸機務議判ノ事ヲ掌ル

以上三職トス

大史以下署之

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

左院

職制章程追テ定ムヘシ

右院

各省長官次官各當務實際ノ可否ヲ議スルヲ掌ル

太政官

正院事務章程

正院ハ

天皇陛下臨御シテ萬機ヲ總判シ太政大臣左右大臣之ヲ輔弼シ參議之ヲ議判シテ庶政ヲ奬督スル所ナリ

太政大臣左右大臣ハ各一員ヲ限リ參議ハ定員ナシ

凡ソ立法ノ事務ハ本院ノ特權ニシテ總テ內閣議官ノ

議判ニヨリテ其得失緩急ヲ審案シ行政實際ニ附スヘキモノハ奏書ニ允裁ノ鈐印ヲナシ然ル後主任ニ下達シテ之ヲ處分セシム

凡テ允裁ヲ乞フ奏書ハ內閣議官議判ノ上內史其部類ヲ分テ之ヲ本帖及副本ニ寫シ本帖ニハ議官之ニ連印シ內史之ニ記名シ之ヲ太政大臣ニ出ス太政大臣之ニ鈐印シテ御批允裁ヲ受ケ之ヲ外史ニ付シテ奉行セシム

但內閣議決スレハ卽日本文ノ手續ヲナシ御批允裁ヲ經レハ翌日之ヲ頒布スルヲ恒例トス

凡帝國一般ニ布告スル制度條例及勅旨特例ノ事件ハ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

太政大臣ノ名ヲ以テ本院ヨリ之ヲ發令ス
諸省使寮司局ヲ廢立分合シ行政事務取捨ノ便宜ヲ謀
リ緩急ヲ判スルハ皆本院ノ特權タリ
勅書奏書ニ加名鈐印スルハ太政大臣ノ任タルヘシ
凡ソ勅任官ノ薦擧免黜ハ
宸斷ニ出ルト雖必ス内閣議官ニ諮リ太政大臣之ヲ補贊
シテ進退ス
凡ソ奏任官ノ進退ハ其所轄ノ奏聞ニ依ルト雖トモ必
ス内閣議官ニ諮リ太政大臣之ヲ處置ス
本院中判任官ノ進退ハ其所轄ノ具狀ヲ得内史ヲシテ
之ヲ處置セシム

京都府知事滋賀縣令等參集列ニ入ルヤカ

議政行政ニ屬スル諸文書法案又ハ勅書令條差除黜陟
ノ記錄等ハ内史ニ付シテ司掌セシム
恒例ノ公文既發ノ命令通常ノ達書等ハ外史ニ付シテ
司掌セシム
内外史所屬ノ各局課式部寮等ノ事務ハ各其主任ヲシ
テ之ヲ管理セシム
本院中專掌スル事務ノ條款左ノ如シ
第一款帝國經理事業ノ緩急ヲ考勘シ之カ目的ヲ定ム
ル事 ○第二款諸制度諸法律及諸規則ヲ草案シ之ヲ議
決スル事 ○第三款賞罰ノ事 ○第四款歳入ノ事、既定ノ
諸租稅ヲ增減變更スルコト、新ニ諸租稅ヲ興ス事 ○第

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

京都府知事滋賀堺縣令等參集列ニ入ルヘキカ

進御

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

太政大臣ノ名ヲ以テ本院ヨリ之ヲ發令ス

諸省使寮司局ヲ廢立分合シ行政事務取捨ノ便宜ヲ謀リ緩急ヲ判スルハ皆本院ノ特權タリ

勅書奏書ニ加名鈐印スルハ太政大臣ノ任タルヘシ

凡ソ勅任官ノ薦擧免黜ハ宸斷ニ出ルト雖必ス内閣議官ニ諮リ太政大臣之ヲ補贊シテ進退ス

凡ソ奏任官ノ進退ハ其所轄ノ奏聞ニ依ルト雖トモ必ス内閣議官ニ諮リ太政大臣之ヲ處置ス

本院中判任官ノ進退ハ其所轄ノ具狀ヲ得内史ヲシテ之ヲ處置セシム

議政行政ニ屬スル諸文書法案又ハ勅書令條差除黜陟ノ記錄等ハ内史ニ付シテ司掌セシム

恒例ノ公文既發ノ命令通常ノ達書等ハ外史ニ付シテ司掌セシム

内外史所屬ノ各局課式部寮等ノ事務ハ各其主任ヲシテ之ヲ管理セシム

本院中專掌スル事務ノ條款左ノ如シ

第一款帝國經理事業ノ緩急ヲ考勘シ之カ目的ヲ定ムル事 ○第二款諸制度諸法律及諸規則ヲ草案シ之ヲ議決スル事 ○第三款賞罰ノ事 ○第四款歳入ノ事、既定ノ諸租稅ヲ增減變更スルコト、新ニ諸租稅ヲ興ス事 ○第

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

五款歳出ノ事、諸官省各地方公費ノ額ヲ定ムル事
諸祿及旅費其他雜費ノ制限ヲ定ムル事、諸族ノ秩祿及
社寺給與ノ制限ヲ定ムル事、臨時諸費ノ制限ヲ定ムル
事、非常ノ軍費及國費ヲ裁定スル事 ○第六款貨幣製造
ノ方法及其品量ヲ定ムルコト ○第七款金券ヲ發行ス
ル事 ○第八款内外國債ノ事 ○第九款度量衡等ヲ改正
スル事 ○第十款州郡ノ經畧ヲ畫定シ及府縣ノ制置土
地ノ名稱等ヲ更正スル事 ○第十一款諸港津ヲ開閉ス
ル事 ○第十二款驛遞運輸ノ法及ヒ郵便規則ヲ改メ道
路ヲ變換シ里程ヲ釐正スル事 ○第十三款地方警邏ノ
規則ヲ定メ或ハ之ヲ變革スル事 ○第十四款鐵道電信

ノ行線燈臺設置ノ場所ヲ定ムル事 ○第五十款兵制ヲ
改革スル事 ○第十六款兵員ヲ增減スル事 ○第十七款
鎭臺兵營及ヒ提督府等ヲ變更スル事 ○第十八款城壘
武庫等ヲ築造スル事 ○第十九款裁判所ノ所權限ヲ定
ムル事 ○第二十款各國ノ條約ノ事 ○第二十一款官員
增減スルコト

内閣ハ

天皇陛下參議ニ特任シテ諸立法ノ事及ヒ行政事務ノ當
否ヲ議判セシメ凡百施政ノ機軸タル所ナリ

内閣ノ職員ハ各地方監察按撫布政等ノ故ヲ以テ特命
派出シ各部ヲ巡回スルコトアルヘシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

凡行政實際ニ渉ル事項ハ必ス其便否得失ヲ主任ノ長官ヲ呼ヒ之ニ諮問シテ後太政大臣ニ出スヘシ
當痾不參ノ者アレハ回議ヲ其邸ニ送リ其所見ヲ取ルヘシ

御批

右職制事務章程
上裁欽定スル所ナリ能ク之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ

明治六年五月二日

奉勅　太政大臣　三條實美

別紙之通被　仰出候ニ付テハ最前御渡相成候各省事務章程中此權限ニ抵觸矛盾スル者ハ被廢止候條

此旨可相心得事

明治六年五月二日

太政大臣　三條實美

右ノ甲令アリ而シテ木戸大久保未タ歸朝セス此ヨリ先キ大使洋行ニ臨ミ參議以下諸省ノ長次官連印ノ證書ヲ以テ大使留守中ハ大事件ハ更革スヘカラスト誓約アリシニ政事ハ活機ナリ數年ノ間之ヲ膠守スヘカラス遂ニ潤飾ノ段ニ到リシニ名ハ潤飾ニシテ實ハ改正ナリ故ニ黑田開拓次官清隆其破約ヲ憤リ太政大臣ニ迫ルニ連印ノ不信ニ屬スルヲ以テ證書ノ自名切取ルヲ以テセリ又井上大藏大輔馨ハ即日職ヲ辭ス而シテ此改革ノ初メニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

當リ五月四日皇城炎上太政官幷左院一時ニ蕩盡萬般書類一切灰燼嗚呼可嘆哉五日ヨリ太政官代幷ニ左院ハ馬場前門内某邸ニ移轉假住居ト相成ル然ルニ左院ハ伊地知副議長一人ニテ擔當セラレ而シテ職制章程モ未タ御下ケ渡シ之ナシ仍テ諸議官洶々トシテ安ンセス於是余ノ愚考ニハ左院ヲ今般設立ノ國會議院ノ上ニ御取設ニ相成リ地方議員ヲ倡誘致候方當然ナルヘシト副議長モ至極可然旨同意ニ有之五月八日建言左之通

左院改定之議

今般政體御改革本院章程追テ御改正可相成旨御布令ニ付左ニ申上候本院是迄ハ正院ノ推問ニ依テ決議之

權有之、議事上ニ聊其不足ヲ補ヒ有用ノ御場所ニ有之候處、新ニ正院中ヘ内閣議院御設立ニ相成萬機判決被仰付候得ハ卽チ儼然タル立法官ニ相準シ、本院ハ無用ノ姿ニ相成候得共、到干此正院ハ始テ屹立致シ、政令施行其宜ヲ得テ、行政諸省ハ此迄ノ弊害ヲ去リ、偏長ノ患有之間敷相成可申ト、不堪敬服、然ルニ獨恨ラクハ地方人民蒙昧不學何レノ時カ開明ノ時ニ進ムヘキヤ、民智如此不開民權亦隨テ不立、百般ノ事業隨テ不成、幸ニ本院ハ辛未廢藩後新設ニ相成、而來内外制度事務取調致來候得ハ、此際御改定相成リ、今般御創立ノ國會院ノ上ニ御取設ニ相成地方議員ヲ倡誘シ、人民一般保護ノ爲

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

メニ相成候様致度、此段上陳候也

明治六年五月八日

三等議官　宮島誠一郎

副議長　伊地知正治殿

右建言伊地知迄進達ノ處九日副議長ヨリ至當ノ見込ニ付早速上申可致旨申來其後返翰左之通

先日御建言拜承候處病氣不參ニ付後藤參議迄云々之次第申上置候處爾後別紙之通返詞到來ニ付爲御安心差上申候也

五月十二日

宮島議官殿

伊地知正治

後藤參議ヨリ伊地知副議長ヘ返答

拜承仕候御清安御連勤之御旨奉欣賀候陳者御院中事情ニ付云々御示被下候御旨承知仕候素ヨリ段々御取調ノ筋モ御座候得共猶爲念尊書幷ニ宮島議官建言書共大臣殿幷同僚ヘモ一閲仕置候先者右拜酬迄如此御座候　拜具

九月五日

後藤參議

伊地知副議長閣下

政府御改革續テ井上大藏大輔辭職候得ハ、折角召集ノ地方官モ其甲斐無之各自歸縣セシトス、政府失信ノ罪免レ難シ、此上ハ何レカ其良策ヲ得テ其儘地方官ヲ抑ヘ留メ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

テ、左院ニ於テ一會議ヲ興シ度、其旨板垣參議ヘ書狀ヲ遣シ、十三日早朝稻荷堀ノ西鄕參議宅ヘ參リ面談先ツ第一ニ國會院設立幷左院御改定ノ方法ヲ談シ候處至極同意ナリ、猶又今度大藏ヨリ召集ノ地方會議モ中止ニ相成甚タ不都合ノ次第ナリ、幸ニ今般本院ヘ國會御委任相成候得ハ、直樣地方官ヲ留メテ、左院ニ於テ會議被開候ハヽ、如何有之可申歟ト相語リシニ、西鄕大喜ニテ御院ニ於テ地方官ヲ御引受ケ御一會被下候ヘハ仕合ノ事ナリ且會議規則等モ御取調ニ相成居候ヘハ後刻參朝正院ニ於テ地方官御請取之議御達ニ可及其節正院ヘ規則原案御持參有之度旨申聞ニテ相別直樣左院ヘ出勤ノ處、折節未タ副

議長病氣不參、其内正院ヨリ呼懸來候ニ付、大議官谷鐵臣代理出頭ノ處伊地知不參ノ爲メ地方官引渡之儀西鄕參議ヨリ發論無之唯國會院取調稿案之儀相談ノミニテ大不都合ナリ云々、他日板垣ヨリ承知致シ可惜機會ヲ失ヒ殘念ノ至リナリ其節正院ヘ差出タル大會議規則三十二則ノ内第五則迄左ノ通リ

維新以來庶政漸ク緒ニ就キ綱紀稍々擧カルト雖トモ藩屏ノ餘習東西風氣尙ホ未タ一ナラス政績亦均シカラス故ニ全國人民ノ代議人ヲシテ各其思フ所ヲ盡サシメ公議輿論ヲ採リ以テ律法ヲ定メ政化ヲ一ニシ上下壅塞ノ弊ヲ去リ民情暢達ノ路ヲ開キ全國ノ人民ヲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

シテ天下ノ重キ各之ヲ擔當スヘキヲ知ラシメント欲スル然リト雖トモ其擧重大率然之ヲ行フ或ハ支吾ノ患ヲ生セン故ニ先ツ地方及ヒ各省ノ奏任官ヲ召集シ左院ニ於テ衆議ヲ盡シ以テ將來治安ノ基礎ヲ建ント欲ス各員上 聖旨ヲ奉戴シ下一般ノ人民ニ代リ協同一和公論精議シテ抱負ヲ盡サンコトヲ要ス

明治六年　月　日

大會議規則

第一則　大會議ハ各地方知事令參事各省奏任以上ノ官本院常在議官ヲ相會シテ事ヲ議スル所以ノモノニシテ毎年一度必ス之ヲ開クヲ以テ常例トス臨時

ノ會議ハ正院ノ命ニ從フヘシ但シ開院ノ期ハ前以テ正院ヨリ布告アルヘシ

第二則　大會議職制左ノ如シ

議長一人

議院中ノ規則ヲ掌リ議員ヲ總轄シ同數兩立ノ衆議ヲ判定シ垂問並ニ議員ノ建議ニ就テ衆議ヲ興シ議員立論ノ旨趣ヲ熟考シ其志ヲ達セシメ凡ソ諸省ニ應接スル等ノ事ヲ掌ル唯會議ノ席ニ於テ自ラ發論スルヲ得ス

副議長一人

職掌議長ニ準ス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

幹事若干人

正院其人ヲ選シ上奏シテ之ニ任ス院中瑣小ノ事件ハ議長ノ指揮ヲ受ケ之ヲ決スルノ權アリ尤モ總會議ノ席ニ於テハ他ノ議員ニ異ナルコトナク平常ハ組分ヲ以テ事ニ任スヘシ

書記長一人

幹事ノ內ヨリ兼勤シ記錄ノ事ヲ總管ス

司計長一人

幹事ノ內ヨリ兼勤シ用度ノ事ヲ總管ス

書記若干人

議長之ヲ選擧シ記錄ノ事ヲ任ス

司計若干人

議長之ヲ選擧シ用度ノ事ヲ任ス

議員若干人

本院常在議官及ヒ各地方ノ知事令參事各省奏任官ヲ以テ之ニ充ツ就中地方及各省ノ議官ハ各其擔任ノ專務アリト雖トモ本院ニ入テ議事ニ列スレハ則一般ノ立法官トス故ニ心ヲ公平ニ置キ議ヲ正確ニ覺メ四隅一治ノ化育ヲ期シテ苟モ恩光偏照ノ憂ナカランコトヲ思フヘキナリ然リト雖トモ一縣一省ノ利病ヲ察スルハ其擔任ノ地ニ精キコト勢然ラサルヲ得ス宜シク辯論包負ヲ盡シ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

思テ言ハス言テ盡サヽルノ患ナカラシコトヲ要ス

第三則　開院本日　天皇臨御三職及ヒ諸省ノ卿出席シ開院ノ禮式ヲ執行アルヘシ

第四則　本日三職ヨリ

一　歳入歳費及其會計ノ事

一　貧民授産幷ニ貧院病院ノ事

一　國債ノ事

一　鑛山ノ事

一　道路橋梁ノ事

一　江河堤防ノ事

一　兵士徴募ノ事

一　軍費ノ事

一　鐵道鐵橋幷ニ電信機燈明臺ノ事

一　墾田拓地ノ事

一　牧畜ノ事

一　驛遞ノ事

以上十二條ノ外本院常在議官ノ擔任スル六分課ニ關係ノ條件其他人氏ノ疾苦ニ關スルコトハ之ヲ建議スルノ權アリトスト雖尚ホ垂問アリテ議スルハ此限ニアラス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

天皇下シ給フ所ノ議案ヲ議長ニ附シ垂問ノ勅意ヲ體任シ公平至當ノ修理ヲ盡シテ協議スヘキ旨ヲ宣シ然ル後會議ヲ開クヘシ

第五則　開院ノ後議長垂問ノ議案ヲ會議ニ附シ答案決定ノ後議長之ヲ正院ニ出スヘシ

其後伊地知副議長病氣平快出勤ノ處時日引移ノ爲メ議論モ替リ御改革ノ際ナリ一旦盡ク地方官歸縣爲致候方可然旨ニテ十六日三條太政大臣方ニテ進退ノ儀評決ニ相成伊地知副議長谷大議官ヲ御召寄ニ相成リ地方官ヲ歸縣セシムル旨御諭告ニ相成リ十八日地方官ヲ太政官へ御呼立ニ相成リ演說ニ被及候事

太政大臣演說ノ覺ヱ

各地方官集會ノ折柄ニ付左ノ趣旨及演說候

各地方ノ事務實際精究之上近々釐正周備ヲ求ムヘキ御趣旨ニテ既ニ今般議會ニ於テ決定セシ箇條ハ奏進ノ上允裁ヲ受クヘシ一體各地方官ノ議會ハ民務之便宜ヲ實地ニ徵考スル緊要ノ事ニテ政理上得益少シトセス故ニ今後議事之體裁ヲ撰定シ左院ニ於テ每歲之ヲ開クヘシ其規則等ハ決定之上頒布可及ト雖トモ今般太政官職制幷事務章程潤飾之上御發令相成右御趣意ノ綱領ハ既ニ勅旨ニテ署承知モ可有之候得共幸未七月制定之官省位置職員權限各其序ヲ得ルト雖モ實

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

地現務上ニ於テ各省委任ノ權限ヲ充擴シ各自其規模ノ皇張ヲ期望スルヨリ其弊或ハ彼此權力相軋スル勢ヲ生シ動モスレハ理論ニ空馳シテ實際ノ事業緩急前後其適度ヲ失ヒ一致平均之準ヲ得ス故ニ太政官ノ職制章程ヲ潤飾シ各省ノ權力ヲ平準シ國勢民力ヲ審ニシテ經理事業ノ緩急ヲ定メ歳入歳出ヲ量テ百般政務議行セシメ以テ前件ノ弊ヲ釐正セントノ旨趣ニテ各縣ノ體裁ニ至テハ目下實務ノ碍アツテ更正ヲ加ヘサルヲ得サルノ外ハ左院ノ議會ヲ開ク迄都テ從前ノ通据置更ニ分合附削ヲ爲サヽルヘシ各地方官能ク此旨ヲ體シ當務一層勉勵可有之事

井上大藏大輔澁澤少輔三等出仕カ之辭職願濟ニ相成ヤ大藏其首領ヲ失フ仍テ參議大隈氏ヲシテ事務總裁被仰付大藏ヲ主宰シ更ニ正院へ會計部ヲ設ケ而シテ六月九日ニ歳出入ノ豫算計算表ヲ達シテ財政ノ有餘アルヲ布達ス地方官ノ歸縣スルヤ左院實ニ可惜ノ機會ヲ失ヒ昨年七八月之間ニ一度其機ヲ失フ今復再失ス何ソ地方會議ヲ開クノ困難ナルヤ然ルニ本院章程漸ク御下問ニ相成副議長ヨリ無異存旨回答六月二十四日職制章程御下付ニ相成リ左院議官ヲ以テ常在議官トナシ行政諸省幷ニ地方官ヲ以テ兼任議官トナシ臨時國會ヲ開ク程規ヲ定メ平日本院ハ國憲民法ヲ編纂スルヲ常職トスルノ章程ヲ附

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

與セラレ此時伊地知氏國憲ハ御國體上萬世不拔ノ皇基ヲ安定スヘキ治國ノ要領ナレハ占今ノ憲法ヲ斟酌シテ大ニ編纂セントス先ツ議官松岡時敏ト小官トヲ以テ之ニ充ツ民法ハ我國古來習慣ノ美事ヲ取テ之ニ佛國ノ民法ヲ斟酌シ編纂スルヲ可トス然ルニ一日正院ヨリ内議アリテ伊地知副議長ヨリ後藤參議ヲ推擧シテ左院事務總裁ヲ兼任セシム後藤總裁ノ左院ニ來ルヤ今般左院ニ於テ編纂スル國憲ハ所謂佛國ノ國憲ニ則リ刑法治罪法稅法商法訴訟法ノ五法ヲ編纂スルナリト仍テ議官ヲ五課ニ分配シテ其編纂ヲ成サシム而シテ伊地知氏ノ負擔スル處ノ帝室玉章ナルモノハ索然トシテ其踪影ヲ失

フ然ルニ一日伊地知氏突然議長職ノ辭表ヲ上申ス議官一同何等ノ事タルヲ知ルモノナシ是ヨリ氏ハ左院ニ出頭セス麻布ノ邸内ニ潛居セリ七月中旬大久保大藏卿ノ岩倉全權大使ニ先チテ歐米ヨリ歸朝スルヤ參議ノ命アリ辭スルニ大使ノ歸朝ヲ待テ之ヲ拜セント余左院ノ近況ヲ談シ院中ヲ固定セントス仍テ大久保氏ヘ贈ル所ノ書左ノ如シ

前畧陳者左院御創立以來兩度ノ改革アリト雖モ而シテ未タ立法ノ權ヲ有セス今ヤ閣下御歸朝ニ付宜シク今日ノ時勢ヲ熟察シテ至當ノ議院ヲ起シ立法行法司法ノ三大權ヲ平均シテ以テ國法ヲ一定シ廢藩置縣ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

全局ヲ御結了有之度内務創立ノ議ハ別ニ具スル所ア
リ今茲ニ贅セス因テ昨年上申スル所ノ國憲論一篇御
參考ノ爲メ呈上仕候委細御面晤ニ相譲度御歸朝之際
御混雜奉察候得共御閑御示被下度奉伏願候也

頓首再拜

宮島誠一郎

七月二十八日

大久保老臺閣下

其後大久保ヨリ返翰左ニ

霖雨不堪鬱然候得共、彌御安祥被成御座奉拜賀候、然者
過日ハ御光來被爲下由ニ候處、折柄外出中御殘多奉存
候、御書中之趣委曲承知仕、明三日差支無御座候間、四字

比ヨリ御來杖被成下度奉願候、此段乍延引御報旁早々

書外拜接讓頓首

八月二日

大久保

宮島君

大久保ヨリ返翰ノ來ルヤ八月三日午後ヨリ參リ面會先
ツ歐米巡回中ノ景況ヲ談話唯々外國ノ富強ノ景況ハ實
ニ意外ニ出テ驚キ且ツ歎スル而已無他辭云々且大禮服
制取調之儀出來之爲メ歐行中其禮式モ無間缺隨分到處
賞讃セラレ就中ビスマルク宅ヘ招請ノ時ハ都合ニモ相
成リ偏ニ御丹誠云々ノ答謝アリ夫ヨリ左院ノ談話ニ相
移ル談話ノ顚末左ノ通リ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

辛未ノ春、薩長土三藩ヨリ藩兵ヲ朝廷ニ獻シ、朝權ヲ確固ナラシムルヤ、續テ土州ヨリ四民平均ノ論ヲ發シ、終ニ福井彦根米澤等ノ諸藩協議シテ朝廷ヘ相願ヒ士ノ常職ヲ解キ祿券ヲ與ヘ文武ノ業ヲ廣ク諸民ニ布キ渡ス旨藩内ニ施行セリ、然ルニ此際封建郡縣二途ノ論紛紜トシテ、薩藩ハ在朝諸氏ノ外ハ專ラ封建ノ勢有之様傍ノ諸藩見做スモノ多シ、當時高知藩大參事板垣氏頗ル慨歎シ封土奉還ノ大業ハ薩藩ヨリ嚆失相成タル ノ程ノ實績有之候テ而シテ猶今日ノ物議アル甚タ遺憾ナリト當時出京ノ西郷大參事ニ告ケ此上郡縣ノ實功不相立レハ第一朝廷御不信ノ名ヲ永ク天下ニ流布

スヘシ故ニ此際先ツ全權ノ才ヲ擧ケテ國家ヲ委任スルニ如カスト兩人商議シ相共ニ木戸氏ヲ推テ朝廷ニ勸ムル事閣下（指大久保）モ亦大ニ盡力アリシ處ニテ我輩ノ深ク知ル所ナリ然ルニ木戸氏獨リ時艱ニ當ルヲ肯ンセス亦西郷氏ヲ推擧ス遂ニ兩氏參議ヲ拜命シテ廢藩置縣ノ甲令ヲ布ク是維新以後ノ一大變革ナリ無程大隈板垣亦參議ニ任セラル此際是非トモニ向後ノ政理人心御取リ治メ可有之ト企望候處豈料ンヤ岩倉木戸閣下諸公等俄ニ外國條約延期ノ大使トシテ歐米派出ニ相成リ候事蓋シ深意アルヘシ初メ我輩板垣ト四民平均ノ藩制ヲ改革スルヤ此ヨリ漸々全國ニ及ホシ民

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

智開ケ民權立テ而シテ後廢藩モ可ナリ免知事モ可ナリト然ルニ俄然トシテ廢藩而シテ未タ政令ノ及サルニ朝廷ノ半ヲ擧ケテ渡航スル果シテ是レ何等ノ御目的ニ出ル歟此レ若シクハ目下困難ノ時勢ヲ避ケテ海外ヲ一察シ歸朝ノ日大ニ更革スルノ策ナリト世論洶々タリ萬一如此ナラハ則恐ラクハ實著ノ政理ヲ棄テ而シテ海外ノ風ヲ模倣スル尤不可然ナリト各自胸中ニ一種ノ拮抗力ヲ發出ス抑郡縣ノ制ヲ立ル政府素ヨリ此政理ヲ審ニスルニ非レハ綱目ノ條理擧ル能ハス實功ヲ修ル實ニ難シ苟モ施政繁劇ノ際別ニ議政一院ヲ設ケテ政府ノ腦髓ヲ助ケサレハ細大施行ノ事務

其宜ヲ得ヘカラス此レ議政ノ法ニ本ツイテ左院御創立アル所以ナリ云々

近況ヲ委細相談結局議政行政ヲ分ケテ三大權ヲ分チ以テ施政無之テハ御國體相立間敷旨相談ニ及候處大久保モ根元ヨリ話有之實ハ使節派出先ヘ御用有之ニ付早々歸朝之旨御呼戻申來夫ヨリ大使ニ先チ二三箇國ヲ殘シ不取敢歸朝候處已ニ御改革モ相濟ミ候由ニテ態々歸朝ニ對シタル御用モ無之當時休息中政府之御摸樣承知不致唯々處々方々或ハ徵兵ノ爲トカ或ハ徵租ノ爲トカ一揆蜂起是ハ如何ニモ源因ノ有之候事歟此等ハ此儘ニ御差置ニモ相成ルマシ但シ三大權施政云々之儀ハ政府獨

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

リ了解スル所ニテ未タ地方官等ニ到テハ何等ノ理由カ不承知之人數多ナルヘシ此等ハ漸々施行未タ遅シト爲サス唯政府之令朝令暮改諸規則繁密ハ必ス人民ノ所不堪ナルヘシ不日參朝ノ上ハ篤ト勘考御評議ニモ及フヘシ時ニ伊地知ノ辭表ハ何等ノ趣意ヨリ出ル云々ノ問アリ小官亦未タ副議長ノ心底ヲ知ル能ハス唯是迄ノ成行ニテ按思候時ハ今般左院ヘ御渡之章程中國憲編纂云々十分ニ王室ノ典章ヲ吟味ノ約束ニ有之候處後藤事務總裁新任以來俄ニ佛國ノ五法編纂ニ變易セシニ源因スルモ不可知旨陳述ス大久保曰ク正治ノ辭表ハ必ス此ナラント又曰ク今般新タニ暑中休暇ヲ賜下セラルヽハ歐

洲ノ通ニテ頗ル好例ナリ此節　天皇箱根　行幸中ナリ余モ亦富山ニ登リ琵琶湖ニ游ント欲スルナリ云々

九月五日大久保ヨリ書翰來ル

彌御安康被成御座奉拜賀候、然者過日ハ御光臨被成下御殘置ノ御紙面拜見仕候、明六日御差支無御座候ハヽ、第四字ヨリ御入來被下度奉願候、先日ヨリ種々多忙ニテ、午存御答延引大失敬御高量所仰候、此段早々如此御座候拜答敬白

九月五日　　大久保拜

宮島君閣下

右ニ付六日午後ヨリ參リ内務新設ノ事ヲ論ス此事昨年

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

同氏中途歸朝ノ折結約致候儀ニテ當時建白書ハ再度ノ洋行歸朝ノ日迄見合吳候樣約束ニ付此段同氏ニ直樣取扱相願同氏大憤發屹度擔當御評議ニ可及旨決答有之且富山ノ雪ヲ掬シ琵琶湖ノ月ヲ觀住吉ノ松ヲ助クル云々（松ノ話ハ名歌アリ）佳話アリ

九月十三日大使岩倉公ノ歸朝スルヤ在朝ノ參議ヲ銘々ニ自宅ニ招キ其意見ヲ問ハル然ルニ此節西鄕參議ハ靑山ノ別莊ニ臥病久シク參朝無之其他諸參議各自支離ノ姿ニテ倦怠萎靡ノ色ヲ露シ而シテ各々歸朝大使一派ノ所見ヲ窺モノアルニ似タリ是ヲ要スルニ五月ノ潤色少シク行政諸省ノ弊ヲ撓メ過キテ却テ根本ニ其害ヲ生シ

支體分離ノ姿ト相成リ前途ノ針路何處ニ傾向スル未可知也

十月二日、岩倉右府歸朝後初テ參朝、木戸參議ハ半身不遂中風ノ症ナリトテ參朝無之、政府自是騷然トシテ穩ナラス、物議紛々、仍テ左院ニ於テ、地方秋ノ會議ヲ開キ、政理提撕セサレハ、今日ノ病實ニ不治ノ症ニ歸スヘシト、此日左院ヨリ直ニ板垣ヲ訪ヒ、意見ヲ晏シテ曰ク國憲創立國會開議ノ事ハ小官之ヲ大久保ニ說ク、因テ此大使歸朝ニ際シ、斷然地方會議ヲ起シ國本ヲ確定スルノ憲法ヲ設立スヘシ且ツ內務新設ノ事ハ已ニ建言書ヲ送致セントス大久保之ヲ諾スル昨年ノ約ノ如シトト、板垣曰ク余此頃少シ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

ク意見アリ中央政府ニ最少シ衆權セントス會議論ハ第二著ト相成タリト、余此言ヲ聞テ平生ノ素論ニ反對シ、壓制主義ニ出ルヲ怪ミ、深ク其蘊奥ヲ極問スルニ、西郷ノ病ヲ問テ征韓ノ事ヲ約スル大旨ヲ内聞セリ、余大ニ愕然タリ、内政未整ニ外征ノ事ニ及フ、實ニ大難事且舊時封建ノ兵制トモ違ヒ、徴兵令モ布令アリ、今又俄ニ藩兵ヲ用ユルカ如キ實ニ不堪驚嘆去リナカラ已ニ西郷結約之事、無可如何、小官ハ唯國憲論ハ素志ナリ、外征ノ事ハ未タ一點モ腦裏ニ無之、先生宜シク詳思過ツコト勿レト、板垣ニ陳述ス、四日左院ヘ出頭、國會創立ノ議案ヘ議官一同連印致シ、後藤總裁迄差出ス、

十二日、正院ニ於テ、内務省ヲ創立ノ御評議相始、十三日、大久保大藏卿副島外務卿兩氏參議ヲ命セラレ、此日ヨリ内閣御用ノ都合有之諸省長官面謁一時ヨリ三時迄ト被仰出候事、

十四日、内閣朝鮮事件大議論相始リ夜ニ入ル、

十五日、内閣朝鮮事件引續テ大議論今日在朝參議ト大久保參議ノ議論相分ル、兩日トモ、木戸參朝無之、

十七日、三條殿岩倉家ヘ被參、夜半西郷參議ヲ自宅ヘ御呼寄、御評議、天明マテ寐ラレス、

十八日、三條殿逆上激發病症甚タ危篤、翌十九日岩倉殿太政大臣代理被命、御請ニ相成ヨシ、

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

十九日、大久保參議ヨリ書翰左ニ十七日ノ返答

過日者御書翰被下、則御回答可申上候處、彼此取紛レ、失敬仕候、御免可被下候、扨御咄之儀有之、御出可被下候ニ付、閑日申上候旨承知仕候、兩三日之間ハ差支申候ニ付來ル二十三日朝第八時ヨリ、御來駕被下候得ハ仕合ニ御座候、此旨御答迄如此御座候頓首

十月十九日　　利通

宮島樣

二十一日、大臣殿御病氣十九日ヨリ御開ラケ相成候旨承知致シ、御見舞參上、

二十三日、大久保ニ到リ篤ト心事ヲ談シ、近來ノ政府上ノ

御混雜實ニ案外ナリ、内政未整ニ外征素ヨリ不可爲、御意見如何ト尋問セシニ、大久保曰ク此節愚考中ニ付國事之儀御答難申云々小官曰ク素ヨリ御答無之時ハ、心事ヲ談スル無用ニ屬セシナリ但シ小官ノ鄙見ハ如何御聞込ニ候哉ト詰問ス、大久保曰ク御意見ノ處ハ敬服感服ナリ此度ノ事件ハ三條殿等ニ御責メ申ス事實ニ御無理ノ次第ニテ御發病ハ無餘儀事ナリ過日御咄之伊地知進退之儀ハ、委細右府ニ談シ置候ニ付不日何トカ可有之旨申聞ナリ、余初テ大久保參議ノ意底、征韓ノ不可ナルヲ察知シ内政ヲ整理スルノ益々急ナルヲ知ル

此日、諸參議征韓可不可ノ兩論

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

天皇ニ奏上シテ御親裁ヲ仰クト云

西郷參議辭表進達、桐野篠原此夜西郷ニ參リ異擧セントス、西郷之ヲ諭スト云、

板垣副島後藤江藤各副島宅ニ集會シ、病氣ヲ以テ辭表進達、大隈大木ハ、大久保同論ニテ依然在職、

二十四日、西郷脫然東京ヲ發シ、鹿兒島ニ歸ル、

此日正院ハ大木參議一人出頭、

二十五日、暫時左院出勤、三條殿へ御見舞、最早御平快ノヨシ、猶森寺ニ就テ此間ノ形勢ヲ尋問スルニ、當月初旬ヨリ政府追々發論、右ハ洋行大使歸朝之處、政府ニ於テ、專ラ西鄉參議征韓ノ議ヲ發シ、板垣同論ナリ、西鄉若シ此議行ハ

レスハ職ヲ辭スルト云、十三日大久保副島參議ヲ拜命シ

十四日十五日、征韓ノ緩急ヲ論シ、大議論ニ相成リ、大久保

大隈兩人十五日ニハ征韓ノ不理ヲ說テ引去、十七日ニハ

三條殿岩倉家ヘ被參、餘程御激論、夜半西鄉參議ヲ御招ニ

テ、天明迄御評議、翌十八日激症ノ逆上ヲ發シ、十九日ヨリ

岩倉殿代理被致、二十三日迄廟議紛紜、諸參議或ハ辭表或

ハ引籠、今日未タ風波鎭靜ニ到ラス、

午後一時半板垣ヲ訪面談、而來ノ景況ヲ尋問候處、一昨日

ハ後藤江藤一同副島ヘ集リ評議、實事ヲ演說シテ辭表ノ

時ハ、事件柄外國ニ差響甚不安ナリ、仍テ何トナク病氣ヲ

以テ辭職セント一同決議、辭表進達、然ルニ西鄉ハ辭表シ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

切リニテ、直様陸路發足歸縣、陸軍省瓦解、桐野篠原等同斷
脫走ス、初メ西鄉ノ征韓論ヲ爲ス、急ニ使臣ヲ差遣シ其罪
ヲ問フヘシト切迫セリ仍テ板垣ハ目的ヲ立テ徐ニ可謀
トノ論兩端相分レシニ結局若シ西鄉破裂セハ內政モ到
底不治、寧ロ西鄉ト共ニ急擧ヲ謀ントノ同論ニ相成シニ三
條公モ御同意ニテ海陸軍ヲ率井テ出征スヘシト相成リ
ケレハ、岩倉公モ初メハ同論ノ處、一日俄ニ變議仍テ三條
公ヨリ頻ニ激論遂ニ激病相發シ岩倉公代理セラル、遂ニ
大久保同論征韓不可爲ノ論ト相成ル諸參議辭表根元ハ
三條公ノ御病氣ヨリ大事瓦解致セシナリト、板垣ノ話ヲ
聞テ唯タ浩歎スル而已、余此間ニ一言ヲ發セサルナリ、此

ノ征韓ナクハ、國憲モ無滯局ヲ結フ疑ナシ、嗚呼可惜、
此日 天皇午後五時頃ヨリ赤坂假皇居ヲ 御發輦ニ相
成、太政官代ヘ 御親臨、黜陟被仰出、西鄉板垣後藤江藤ノ
參議ヲ免セラレ、勝寺島伊藤ニ參議ヲ命セラル、木戸ハ病
氣ニ付私宅ニ於テ政務ニ參スヘキ旨被仰付、大久保參議
一人ニテ擔當、岩倉公太政大臣代理ニテ此進退モ相濟ミ、
大隈大木兩參議其間周旋セラルナリ
二十八日、左院出勤大久保參議ヘ書狀相添、內務新設ノ議
案ヲ進申、屹度領承之旨申來、
三十日、岩倉公ヨリ伊地知副議長ヲ御呼立ニ相成抱負御
聞取相成ル

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

十一月二日、大久保參議面會、然ルニ伊地知一昨日岩倉家ヘ參リ、出勤可致旨答タルヨシ、此旨承知可申旨申聞ナリ、此言ヲ聞テ數月ノ配慮モ少シク安氣セリ

十日、左院ヘ出勤本田議官ト申シ合セ、岩倉公ヘ參リ、本院振興幷ニ伊地知出勤ノ運ヒヲ熟談ニ及度、議長代理伊丹議官迄相談ニ及候處、同氏昨日伊地知ヘ參リ、出勤ノ儀催促ノ處、何分此儘ニテハ出勤致シカタシ、見込ノ件御採用ノ節ハ、必ス出勤ニ可及旨ヲ以テ件々ヲ書付ニシテ、之ヲ岩倉ニ差出シ吳候樣申聞ニテ、右ノ書付今朝不取敢岩倉ニ持出シ、面談ハ明後朝ト相約シ候ヘハ、其摸樣ニ因テ參向可然旨伊丹ノ話ニ因リ之ニ從フ、

今日內務省ヲ被置候段御布令アリ地方人民ノ疾苦初テ可救ノ道ヲ得テ不堪欣躍之至即夜左院ニ於テ予カ取調タル國務省ノ書類、大久保參議ヘ相送ル、

十二日、伊丹代理、岩倉ヘ參リ、伊地知ノ見込御採用速ニ出勤ノ運ニ相成候樣岩倉ヘ申込候處、精々盡力ノ旨岩倉公引受ラレ候由、

十五日、伊地知副議長久々ニテ出勤、本院一同慶祝、

二十五日、伊地知副議長松岡議官更ニ正院制度御用掛被仰付、是ヨリ追々內務職制取調左院職制章程等モ改定ノ評議、制度局ニ於テ始ル、正院ヨリ寺島伊藤ノ新參議、兩人兼勤セラレ候事

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

明治七年一月十七日、舊參議連署ノ書ヲ以テ突然民選議院論ヲ建白セリ、後藤舊議長自ラ建白ヲ携帯シテ左院ニ來リ、切ニ形勢ノ急ヲ說ク、伊丹松岡高崎及小官應接シテ之ヲ受理ス、

十八日、議官一統會議ノ上舊參議建白ヲ正院へ上陳セリ、

十九日副島種臣ヲ呼出シテ、建白書上陳ノ始末ヲ聞ク、此ヨリ先キ十四日喰違ニ於テ岩倉右府ノ變アリ、續テ佐賀ノ亂起ル、

二月十二日、左院御革正被仰出候テ、職制事務章程御渡ニ相成リ、是迄ノ左院ヲ太政官中ニ御繰込ニ相成リ、又々以前ノ如ク正院ノ顧問ニ備ラレ、六課ヲ分配シテ内務外務

財務兵務法制諸業ノ事ヲ掌ラシム、其職制章程中ノ最モ重シトスル者ヲ左ニ、提起シテ記載スル左ノ如シ、

左院職制幷事務章程

上裁鈐定スル所ナル能ク之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ

明治七年二月十二日

太政大臣三條實美花押

議長職制中

正院及各省幷國會議院等ニ對シ本院ノ決議ヲ申明スルヲ得云々

十五條章程中

第一條本院ハ議政官ニシテ正院ノ輔佐ト成リ其垂

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

問ノ事ヲ議スル所ナリ云々

第二條凡テ制度條例ヲ創立シ或ハ成規定則ヲ增損更革スル事ハ正院ノ垂問ニ依テ本院之ヲ決議シ以テ上奏スヘシ

第三條一般ニ布告スヘキ諸法律制度ハ正院ヨリ必ス先ツ本院ニ下シ其利害得失ヲ評論セシムヘシ

第七條議事ニ當リ行政ノ官員ニ諮詢スヘキコトアルトキハ正院ヘ乞テ其人ヲ出席セシムヘシ

第八條議事ニ付取調ノ事件アレハ議官ヲ諸省ニ遣シ又時トシテハ地方ヲ巡回セシムヘシ

第十一條地方官會議ノ時正院垂問ノ議按ヲ申明セ

ン爲メニ本院議官ヲ其會議ニ遣シ趣旨ヲ審詳辯論セシムヘシ

第十二條人民ヨリ支配官廳ニ對シテ起セル訴訟アルトキハ正院ヨリ之ヲ本院ニ下シ裁判セシムヘシ」

第十三條正院ニ於テ國憲ヲ議シ或ハ職制章程等ヲ創立シ又ハ之ヲ增損スルコトアレハ特命ヲ以テ本院議官ヲ選任シ其事ニ與リ議セシムヘシ

二月十四日六課分別正院參議ヨリ布達有之左ノ通

六課分別本書ノ通御施行可有之候事

二月十四日

伊藤參議印

寺島參議印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

伊地知副議長殿

内務課　戸籍病院貧院貧民救助獄舎徒場巡査道路
橋梁舟車驛遞電信書籍免許等及ヒ神社寺院學校教
法音樂等ニ關スル方法規則ヲ議スルヲ掌ル
外務課　條約接待貿易等ニ關スル方法規則ヲ議定
スルヲ掌ル
財務課　諸稅則幷ニ出納ニ關スル條件商賈相互ニ
貿易賣買諸會社規則幷ニ貨幣産物國債等凡テ其增
減出入ニ關スル方法規則ヲ議定スルヲ掌ル
兵務課　海陸軍律諸軍器園營城隍等ニ關スル方法
規則ヲ議定スルヲ掌ル

法制課　民法訴訟法治罪法刑法商法及ヒ官職位階
儀杖服飾禮式等ニ關スル方法規則ヲ議定スルヲ掌
ル
諸業課　農工商三業之ニ屬スル雜業幷ニ漁獵採鑛
開墾治水諸製作等ニ關スル方法規則ヲ議定スルヲ
掌ル

此日、大久保内務卿、河野權大判事、野津井田山田ノ三少將
ヲ率ヒテ、九州へ鎭撫トシテ發行ス、十七日島津左府へ勅
書御直渡相成、薩州へ發行セラル、十九日佐賀縣兇徒征討
被仰出、東伏見宮征討總督被命、山縣陸軍中將伊東海軍少
將等出發、官軍勝利不日平定スヘシ、佐賀兇徒ノ類、或ハ征

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

韓論民選議院論封建論數派相混シテ亂源ト相成ル、
左院職制章程幷ニ分課御達ニ相成、十七日太政官中ヘ移
轉繰込ニ相成、而シテ前ニ所謂國憲ナル者ハ、章程十三條
ニ正院ニ於テ、國憲ヲ議スルコトハ、特命ヲ以テ本院議官
ヲ選任、其事ニ與リ議セシムト云々、加之副議長制度御用ヲ
モ兼勤セラルレハ、副議長ヨリ正院ヘ二月二十八日伺左
ノ通

謹テ按スルニ憲法ハ邦家ノ基礎ニシテ治國ノ要領タ
リ上下萬世之ニ依リ維シ之ニ賴テ持スル所以ノ道ニ
シテ之ヲ建ルノ方其宜ヲ得ル古先賢哲又甚難シトス、
況ンヤ臣等ノ不肖敢テ輕議スル處ニアラス、然リト雖

モ治國憲法ノ大本定ラサレハ萬緒綱目秩然併擧スル
能ハス重大ノ典章モ他日ノ變革ヲ疑擬シ人心動搖シ
テ永久確守ノ目的ヲ失フヘシ是國政上許多ノ損害ト
成ルノミニシテ、維新ノ始メ五箇條ノ御誓文ハ、萬世ノ
國憲ハ勿論ニ候ヘトモ、譬ヘハ御國體上萬世不拔ノ皇
基ヲ奉スヘキノ如キハ御誓文ニ出サヽルコト能ハサ
ルノ類ニテ完全ノ法章ニ備ラサル御闕典ノ姿ニ有之
仍テ上下ノ便宜ヲ通考シ、古今ヲ斟酌シ、所謂根元律法
ナル國憲御確定被爲在度奉存候、右ニ付テハ、一日萬機
ノ御政務多端ノ御儀ト奉恐察候條、本院ニ於テ議官數
員御特撰被下候ハヽ、見込ノ條々編纂イタシ、聊御見合

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

ノ爲メ上陳可仕候也

明治七年二月二十八日

副議長伊地知正治

右一篇上奏相成候處、爾後廟堂御多事、漸ク日ヲ經ルコト七十二日ニシテ左ノ通、

伺之趣御聞屆相成候條、編纂ノ上上申可致事、但シ懸リノ議官ノ儀ハ、本院ニ於テ撰定シ、名前可屆出事、

以上明治五年壬申四月ヨリ同七年五月迄左院ニ於テ擔任スル所ノ國憲編纂起原ニ係ル事情ナリ今茲ニ抄錄ス

明治十四年辛巳五月

宮島誠一郎

前一卷ハ明治十四年辛巳五月岩倉右府ニ呈スル處ナリ。然レトモ固ヨリ予ガ私記ニ過キス。爾來之ヲ筐底ニ投シ。敢テ世ニ示サズ。今ヤ萬世不易ノ憲法制定セラレ。

皇國ノ基礎益々鞏固トナリ。而シテ憲法ヲ研鑽スル學者固ヨリ其人ニ乏シカラス。獨リ當時ノ事情ニ至リテハ。世ニ知ラル、コト少シ。因テ今之ヲ公ニシ。聊カ國憲起源ヲ推究スルノ用ニ資セントス。識者余カ微衷ヲ諒セラレバ幸甚矣。

明治三十八年十一月

宮島誠一郎手記

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

明治三十八年十二月廿五日印刷
明治三十八年十二月廿八日發行

著者　東京市麹町區平河町五丁目十七番地　宮島誠一郎

印刷者　東京市麹町區紀尾井町三番地　中村貞臣

印刷所　東京市麹町區紀尾井町三番地　元眞社

非賣品

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 232